

ICT活用モデル工事について

生産年齢人口の減少が予想される中、建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設産業を目指す新しい取組である「i-Construction」が推進されています。
国土交通省や都道府県等の工事では、「i-Construction」の一環として、土工、舗装工などICTの適用工種が順次拡大されています。
苫小牧港管理組合では、国等の動向を注視しつつ、ICT活用が可能な現場で施工者希望型による試行工事を実施しますので、お知らせします。

●i-Constructionの3本柱

①ICTの全面的な活用 (ICT土工)

調査・測量・設計・**施工**・検査等のあらゆる建設生産プロセスにおいてICTを全面的に活用する取組。
(ドローンを用いた3次元測量や**ICT建設機械による施工**などで、高速かつ高品質な建設作業を実現を目指す)

②全体最適の導入 (コンクリート工の規格の標準化等)

現場ごとにサイズや工法がバラバラでは、手間が増えてとても非効率。コンクリート工における規格を標準化し、業務の効率化を図る取り組み。

③施工時期の平準化

建設現場では、繁忙期と閑散期が極端なため、収入が不安定で休暇が取得しづらいといった現状があります。そうならないように考慮した発注計画を作成することで、施工時期をできるだけ平準化しようとする取り組み。



ICT活用が可能な現場で試行工事「**ICT活用モデル工事**」を実施

●ICT活用モデル工事の概要

従来方法



I-Construction
(ICTの全面的な活用)



ICT活用
モデル工事



●対象工事

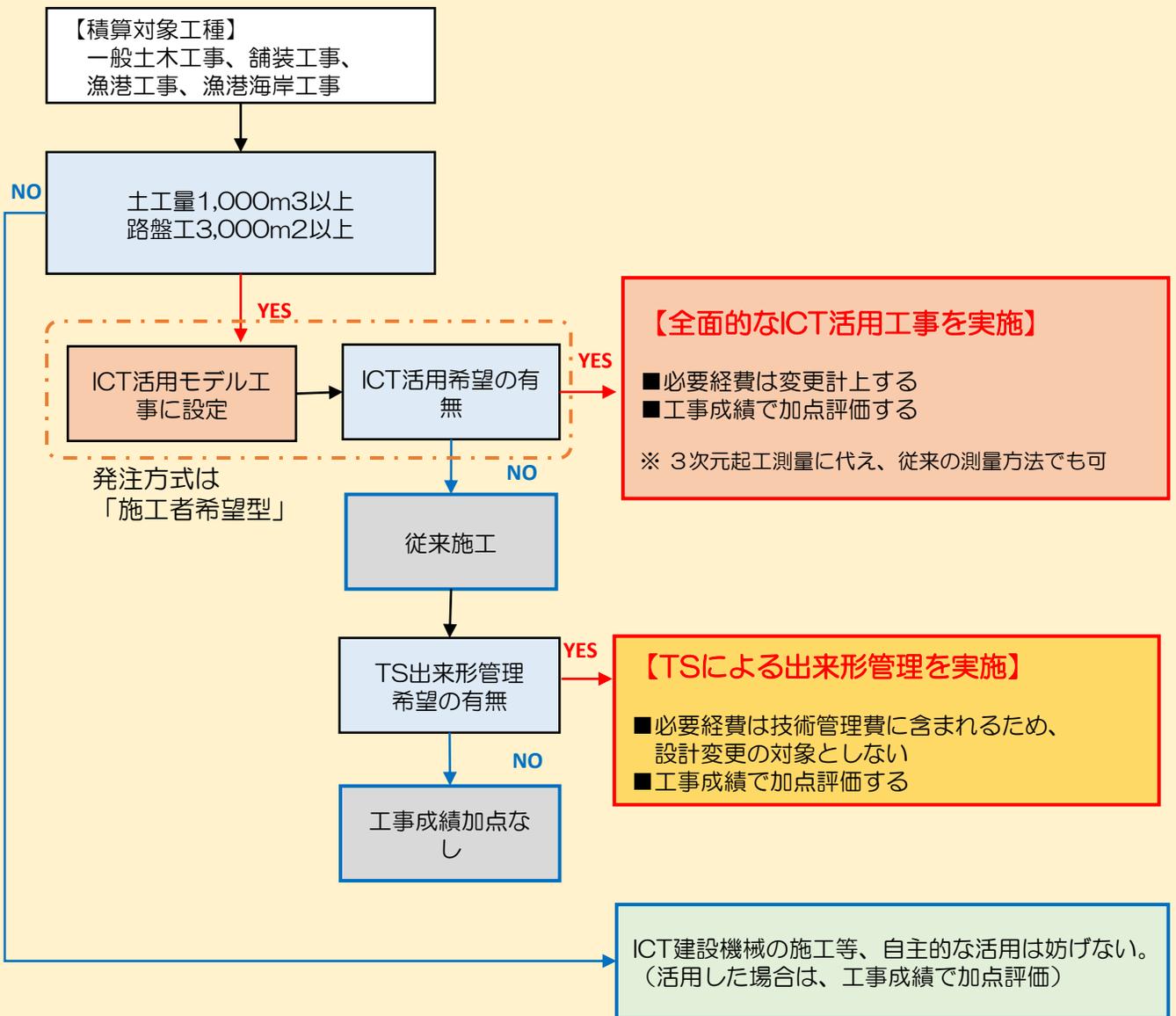
令和3年7月1日以降に入札を行う工事のうち、発注者の指定した工事。
(土工量1,000m³以上または路盤工3,000m²以上の工事)

●その他

- ・発注方式は「受注者希望型」で実施
- ・必要経費は設計変更で計上
- ・実施状況に応じて工事成績で加点評価

ICT活用モデル工事（概要）

●ICT活用モデル工事の流れ



●費用の取り扱い

項目	計上項目	取扱い
3次元起工測量	共通仮設費	見積徴収による積上げ
3次元設計データ作成	共通仮設費	見積徴収による積上げ
ICT機械施工	直接工事費	施工パッケージによる積上げ
(保守点検)	共通仮設費	算定式による積上げ
(システム初期費)	共通仮設費	定額による積上げ
3次元出来形管理	共通仮設費	補正係数による加算(補正係数1.2)
3次元データ納品	共通仮設費	補正係数による加算(補正係数1.2)
外注経費等	現場管理費	補正係数による加算(補正係数1.1)